**全国プログラム委員会からのお知らせ（全国研究大会報告募集）**

水野谷武志（全国プログラム委員長）

**2021年度（第65回）全国研究大会の企画セッションの設置と報告者の募集について**

　2021年度全国研究大会は，北海道支部を開催担当支部として以下の日程でオンラインで実施します。

〔日程〕2021年10月16日（土曜），17日（日曜）

〔会場〕オンライン（Zoom）

　つきましては，研究大会での報告を希望されている会員の方は下記の要領でお申し込みをお願いします。また，報告者の方には研究大会に先立って『2021年度全国研究大会報告要旨集』原稿，そして大会終了後には『2021年度全国研究大会報告集』原稿を提出していただきます。

なお，最終的なプログラムの確定に際しては，企画セッション間での調整，一般報告希望者の企画セッションへの参加，あるいは追加セッションでの報告などをプログラム委員会の方からお願いするケースもあることをお含みおきください。

**1．報告申込みの要領**

**【報告者の資格】**

　原則として会員とします（複数で報告する場合にも全員会員が基本です）。

注）非会員の報告については機関誌『統計学』投稿規程に準じることとします。また，有効期限付き滞在ビザで入国している外国人会員（もしくは共同報告者に予定される外国人非会員）で報告を希望する場合には，滞在ビザの有効期限にご注意ください。学会報告を理由に滞在許可の延長申請をしても，許可されないことがあります。在留期間に定めのある会員は，あらかじめ滞在期間の延長を申請し，その許可を得るなどの必要な措置をとってから，エントリーしてください。

**【報告者募集期間】**

2021年6月25日（金）～8月16日（月）（期限厳守へのご協力をお願いいたします）

**【申込み方法】**

　「全国研究大会報告申込みフォーム」に必要事項を記入の上，プログラム委員長・水野谷武志まで郵送または電子メールで申し込んでください。申込みフォーム（ワードファイル）は，学会のウェブサイト（http://www.jsest.jp/全国研究大会/）からダウンロードできますので，必要な方はそちらもご利用ください。

①郵送の場合

〒062-8605　札幌市豊平区旭町4-1-40

　北海学園大学経済学部　水野谷武志　宛

②電子メールの場合

記入済みフォームを添付して，水野谷武志宛（mizunoya@econ.hokkai-s-u.ac.jp）に送付してください。なお送付に際しては，メールの「件名」に必ず「大会報告申し込み」と明記してください。

**【その他】**

　報告の採否は改めて委員会から報告希望者に8月中に連絡しますので，もし連絡が無い場合には水野谷までご連絡ください。

**2．一般報告，企画セッションのテーマ・提案者・趣旨**

**2-1　一般報告（自由論題）**

　自由論題での一般研究報告を募集します。なお，関連性の強い報告がまとまれば，プログラム委員会の議を経て新たに企画セッションとして設置することもあります。

**2-2　企画セッション**

**１）特別講演―札幌市の新型コロナウイルス感染症対策とGISの活用（仮）**

提案者：全国プログラム委員会

　新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中，感染拡大を食い止めるためには現場感覚に即応した地方自治体の舵取りが求められる。そのひとつとして，本研究大会の開催を担当する北海道支部では札幌市の取組みに注目した。札幌市では2020年5月から，札幌医科大学・北海道科学大学・北海道情報大学等と協働し，GISを駆使した宿泊療養・自宅療養者らの健康観察を行っている。行政側の業務低減のみならず，被健康観察者のリスク判定を自動化し，これら情報を現場や保健所内にて共有，見える化することで，感染拡大期の限られた医療資源の配分にも寄与している。このような現場の具体的な取組みと今後の課題について理解することは本学会員にとって適時的であるとともに貴重な機会となりえる。またGISの活用という点でも本学会とおおいにつながり，学術的にも意義があると考え，特別講演として設置する。なお，講演者は札幌市の取組みで中心的な役割を果たしている，札幌医科大学の小山雅之先生を予定している。

**２）2025年成立の国民経済計算・国際収支統計周辺の課題**

提案者：櫻本健（立教大学）

国民経済計算，国際収支統計，国際標準産業分類といった主要な加工統計が2025年に改訂される予定になっており，国際的にグローバリゼーション，デジタライゼーション，サステナビリティといった多数の分野で世界中の専門家を集めて議論が進められている。これまでと異なり，ここまでの国際会合では日本もそれなりに貢献できている。セッションではトピックごとに現状を共有し，日本としてできうることを検討する。

**３）日本の統計史を考える(仮)**

提案者：小林良行（総務省統計研究研修所）

本セッションは統計史の重要性について再認識を促すことを目的として設けるものである。わが国に西欧の統計思想が導入された約150年前から今日までの間，統計の理論，実務，制度，学説などには様々な変遷があった。本セッションはこれら諸分野を歴史的な観点でとらえる報告を中心とする。歴史的な観点とは後代における客観性のある批判・評価の観点と言えよう。本セッションで考えている統計史は，国内だけでなく諸外国との統計学上のかかわりも視野に入れ，明治期以降を基本的な時間的範囲としたものである。

**４）地域の諸課題と調査・統計分析**

提案者：菊地進（東北・関東支部）

人口減少が急速に進む地方のみでなく，なお増加の続く一部の都市部においても高齢化の問題が深刻化してきており，防犯・防災，子育て，介護，地域医療，地域福祉，公共施設の維持，公共サービスのあり方など，地域の課題が山積みとなっている。2020年から生じているコロナ禍がこれらの解決を一層難しいものとしている。これらの地域の諸課題は，行政サービスの改善のみで解決できるものではなく，地域の各層の協働・共創が強く求められている。そのためには，地域の現状を掘り下げ共有認識が広まっていくことが必要である。

そこで，地域において山積する諸課題との関わりで進められている調査・統計分析を報告していただき，地域の諸課題の検討を深めるセッションを設けることとしたい。

**５）第5次男女共同参画基本計画とジェンダー統計**

提案者：杉橋やよい（ジェンダー統計研究部会・専修大学）

「第5次男女共同参画基本計画」が昨年12月に策定された。ジェンダー統計の充実や利活用が述べられたのは，6つの分野（4.学技術・学術，5.暴力，6.障害者，8.防災・復興・環境，10.教育，11.国際的協調［分野に振られた番号を項目の前に示した］）と「Ⅳ推進体制の整備・強化」においてであるが，すべての分野においてジェンダー統計の充実が，男女共同参画を進める上で必要である。また，性的マイノリティの統計での配慮について検討することが，はじめて盛り込まれた。そこで，セッションでは，日本のジェンダー平等を進めるために，第5次男女共同参画基本計画とジェンダー統計について，国際的な取組みも参考にしながら，検討したい。

**６）労働・生活・福祉問題と統計**

提案者：村上雅俊（労働統計研究部会・阪南大学）

　労働統計研究部会では，部会員が取り組んでいる最新の研究テーマについて，多様な報告者でセッションを構成することが部会及び学会の活性化につながると考えた。そこで労働・生活・福祉問題に関連する分野で研究に取り組んでいる会員で構成したセッションを設置したい。

**３．今後の日程（予定）**

6月25日～7月25日　報告者募集期間

7月末　開催形態の決定

8月下旬　プログラム＋出欠葉書の郵送配布

9月10日　『要旨集』原稿の提出期限

10月上旬　『要旨集』の発行（学会ウェブサイトで）

10月16～17日　全国研究大会

11月10日　『報告集』原稿の提出期限

12月　『報告集』の発行（学会ウェブサイトで）

**4．『2021年度全国研究大会報告要旨集』及び『2021年度全国研究大会報告集』について**

　原稿執筆の際に以下の諸点についてご注意ください。報告が確定された方には改めてお知らせします。なお，『要旨集』と『報告集』のいずれもPDFファイルで学会ウェブサイトにて発行します。

1. ページ数はA4判2枚とします。提示する雛形に従って作成してください。
2. 原稿の締切については，『要旨集』は9月20日，『報告集』は11月10日とします。
3. 原稿ファイルはPDFファイルでご提出ください。提出された原稿をそのまま『要旨集』及び『報告集』に集録いたします。
4. 原稿ファイルは水野谷武志宛（mizunoya@econ.hokkai-s-u.ac.jp）に送付してください。

**5．その他**

　大会開催について不明の点などあれば，各支部のプログラム委員にお尋ねください。

[北海道支部]水野谷武志，鈴木雄大

[東北・関東支部]杉橋やよい

[関西支部]村上雅俊

[九州支部]山口秋義，中敷領孝能